

## 続々と年末の第九公演開催



**年**末恒例の第九、今年は多くの合唱団が中止に追い込まれています。新型コロナウイルスの感染状況がなかなか改善せず、二の足を踏んでいる状態でしょう。しかし、大型の公演は最善の対策の上で開催に漕ぎつけようと必死の努力を重ねています。

### 日フィル GoToイベントキャンペーンで開催

日本フィルの第九は、経産省のGo Toイベントキャンペーンを使ってチケット代金を安く抑える予定です。12月19日横浜みなとみらいホール、20日サントリーホール、指揮飯森範親、合唱は調整中とのこと。

このキャンペーンは、感染拡大で甚大な影響を受けている文化芸術やスポーツイベントの需要喚起を目的とした事業で、チケット価格(消費税込み)の原則として2割相当額(※)を、登録チケット販売事業者を通じて、消費者に給付するものです。

(※給付額はチケットあたり2,000円を超えない額。

クーポンによる給付の場合は、チケット価格(消費税込み)の2割相当額を上限とする。)

但し、給付対象期限は1月31日までです。当然、感染拡大防止策の実施、三密リスクを回避した新たなイベント手法に取り組んでもらうなど、「新しい生活様式」に対応した事業活動の推進と定着促進を目的としていますので、それ相当の対策を示せないと採用されません。また、申請手続きは一般の方にはやや煩雑かも知れませんが、税金を投入するのでからいい加減なやり方は許されないので仕方ありません。また、チケット代の2割相当分の会場等での物販等で利用できるクーポンも対象となります。

### 名古屋フィル、合唱団を東混に変更して開催

名古屋フィルは、合唱団を本来の愛知県合唱連盟から東京混声合唱団に変更して、12月18-19日愛知県芸術劇場コンサートホールで第九演奏会を開きます。東混は24名でのオンステです。

愛知県下の合唱団は練習もできない状態が続いていましたので、やむを得ない対応だと思えます。



名古屋市の「文化施設における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」に沿った対策を実施しますが、「交通機関や飲食店の分散利用など、公演前後の感染防止にご協力ください」と、会場ですべて忘れてしまわないよう注意喚起をしています。

このガイドラインの規定は細かく、千人を超えるようなイベントは事前に愛知県と事前相談することを求めています。また、施設管理者が講ずる具体策として、「接触感染」「飛沫感染」「集客施設としてのリスク」などのリスク評価をし、十分な防止策をしなければなりません。

例えば、「トイレの蓋を閉めて汚物を流すよう表示」「現金の取扱いを減らすためキャッシュレス決済を推奨」「隣同士の配席とする場合には、ひじ掛けを左右いずれかに統一する」など相当踏み込んで規定しています。

### サントリー1万人第九はスモークテストで確認

サントリー1万人の第九は、感染症専門家をアドバイザーに、大阪城ホールアリーナの安全性の検証を9月に行いました。

アリーナ全体の空気の流れについて、ポイントごとにスモークを焚いて確認しました。スモークマシンから出て来たスモークはそのままでは温度が高いため、直径20cm、長さ約2mの蛇腹を通して体温くらいまで冷ましてから放出しました。

歌唱者は、マウスシールドに加えパーソナルファン(首掛け式の簡易扇風機)で飛沫・エアロゾルを上方へ飛ばすようにし、前方には行かない工夫をしましたが、歌唱者の上方へ飛んだものを速やかに排気する空気の流れが必要になります。

アリーナの空調は、通常天井から給気+下方より排気という流れですが、これでは困るので4通りのパターンで測定した結果、「下方排気をやめ、天井の排気ファンを4台にした上方排気のみ」としたところ、スタンド席から上方に向かってスモークが排気されることが確認できました。

そこで、開演前までは通常の床からの排気を行い、合唱中は変則的に天井の排気ファンのみフル稼働する方式を採用することにしました。これでスタンド席のほとんどで安定した上昇気流が確保され、その流れはさほど速い風ではないとのこと。